

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

地の利見据えた腰・膝の専門病院

⑬④ 稲波脊椎・関節病院 (東京都品川区)



現代風のホテルのような外観

椎 間板ヘルニアや脊柱性管狭窄症などの脊椎疾患で国内有数の手術実績を持つ岩井整形外科内科病院(東京都江戸川区)。国内トップとなる年間約1300件の脊椎内視鏡手術を施している。低侵襲手術と患者の早期復帰が評判で、全国から患者が来院する。そのため、施設のキャパシティが限界となり、患者を長時間待たせる状況にもなっている。

同病院を運営する医療法人財団岩井医療財団(稲波弘彦理事長)は開院25周年を迎えた今年の7月、交通アクセス上の問題なども考慮し、同病院

に次ぐ2院目となる腰・膝の専門病院、稲波脊椎・関節病院を品川区内に開院。院長には脊椎治療に豊富な実績を持つ稲波理事長自らが就いた。

JR品川駅には新幹線が止まり、2027年開業予定のJR東海リニア中央新幹線の首都圏側の始発駅になる。また、羽田空港からも近い。20年開催の東京オリンピックでは訪日外国人の来院も見込めるといった、地の利の良さが品川にはある。

稲波脊椎・関節病院は理念として①医療を通じて患者さんの幸せに資する②最高の医療を提供する③常に革新的である——を掲げ、岩井整形外



腰や膝に優しい椅子を設置した待合



カルテをはじめ、種々の画像情報が一度に表示される診療ブース



ミスト噴射のシャワーを備えたり、隣室とも内部で行き来できたりする特別室



患者を動かさず、機器の方が動くオート機能を持つレントゲン室



患者の体に金属が入っていることで発生する画像ノイズを補正できるCT



患者のさまざまな情報を表示する数々のディスプレイを備える手術室

科内科病院と同様、「高度で、かつ身体への負担が少なく、安心を与えられる医療」を目指している。

そのため、電子カルテでの患者情報一元管理によるフルオーダーシステム、精度の高い画像診断体制、患者に対する治療の「見える化」など、最新の医療設備を導入したりして、最良の医療サービスを提供する体制を整えている。

一番の特徴は、岩井整形外科内科病院の目玉である脊椎治療に加え、関節治療を2枚看板にしていることだ。その柱となっているのが内山英司副院長。内山副院長は膝前十字靭帯治療の第一人者

で、スポーツ外傷・障害の膝(関節)疾患治療の専門医だ。日本体育協会公認スポーツドクターや日本オリンピック委員会専任スポーツドクターなどを務め、一流選手らの膝にメスを入れ、復帰を支えてきた。

稲波脊椎・関節病院は京浜運河の近くに建つ。現代風のホテルのようなデザインに驚く。外観は病院らしくないため、うっかりすると通り過ぎてしまいそうだ。内装は明るく柔らかな色調で、待合などの椅子は座っても腰や膝が痛みにくい構造のものを設置。スタッフの対応も含め、細やかな心遣いを感じる。国際派の病院として大きく羽ばたきそうだ。